## 第130回 長崎大学FD実施報告書(平成 28年 3月 29日提出)

1. 題 目:運用能力の改善に向けた授業展開のあり方について

2. 日 時:1回目:平成28年3月16日(水)13:00~16:00 2回目:平成28年3月19日(土)13:00~16:00

3. 場 所: 教養教育棟 A-12

4. 主 催:英語小委員会・言語教育研究センター

5. 对 象:教養教育英語担当教員

- 6. 長崎大学FDに関する指針第二項への該当について【複数選択可】 (該当するものに○を記入すること)
  - [ ](1) 教員の教育活動に関するもの
  - [ ](2) カリキュラムの改善に関するもの
  - [ ](3) 教育の組織的改善に関するもの
  - [ ](4) 入学者選抜方法の改善に関するもの
  - 「○○○(5) その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの
- 7. 今回のFDの趣旨・意義(6. に関連した形で記述すること)

「グローバル人材の育成」と「大学の国際化」という大きな要請に応えるために、長崎大学では、本年度 9 月から長崎大学独自のグローバル事業として着手した「長崎グローバル+コース」を開始し、本事業の土台と位置付ける学部横断型英語特別プログラム「Special Course in Academic Skills(SCAS)」を学生へ提供している。SCAS においては、TOEIC 及び G-TELP 等の分析から、これまで本学の学生、とりわけ比較的英語力が高い学生に欠けていたと考えられる運用能力である speaking・writing を中心に訓練を行っている。

SCAS の講師陣は、Northern Arizona University で TESOL(Teaching English to Speakers of Other Languages)の専門的訓練を受け、日本、トルコ、マカオ、コロンビア等、世界各地の英語特別プログラムで教鞭をとってきた経験と実績があり、TESOL そのものも研究活動も精力的に行っている。

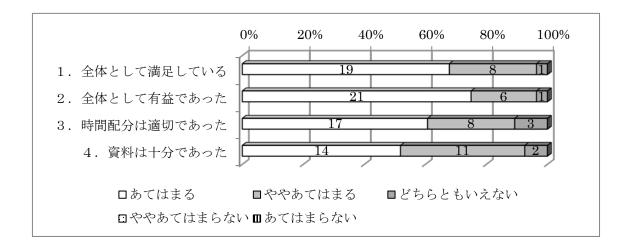
今回の FD においては、SCAS 講師陣を講師に迎え、SCAS で行っている(あるいはこれから行う) 教授法の一端を公開することで、英語運用能力の向上に資する、長崎大学の学生にカスタマイズした教授法のあり方について、さまざまな意見を出し合うことで共有しか

つ議論を行い、今後の教養教育英語科目におけるさらなる英語教育の改善のための契機としたい。さらに、教養教育で英語教育に関するさまざまな取組み(夏季・春季海外語学研修、外国語プレゼンテーション・コンテスト、English Café)を紹介し、そうした取組みを有機的に連携づけるための意見等も伺う機会としたい。

- 8. プログラム構成 [題目・担当講師] (当日使用した資料等を添付すること)
- 1. 挨拶 (言語教育研究センター 稲田俊明センター長) 13:00~13:10
- 2 . SCAS Team Presentation on TESOL (Nickolas Verde & Kerry Pussey)  $13:10\sim14:10$  Q&A and Discussions  $14:20\sim14:40$
- 3. 英語アンケート及び学生による授業評価アンケートについて (言語教育研究センター 西原俊明 教授) 14:40~15:00
- 4. 来年度の共通成績評価項目について (言語教育研究センター 廣江 顕 教授) 15:00~15:20
- 5. 平成 27 年度言語教育研究センターの取り組みの紹介 (言語教育研究センター 廣江 顕 教授) 15:20~15:30
- 6. 全体討議 15:35~16:00
- 9. 参加者:延べ 54名(3/16 40名、3/19 14名) (内訳)

所 属	人 数
言語教育研究センター	13
国際教育リエゾン機構	1
大学教育イノベーションセンター	1
多文化社会学部	6
教育学部	3
経済学部	3
医歯薬学総合研究科	1
非常勤講師	26
計	54

- ※ 別紙に参加者名簿を添付してください。
- 10. 実施したFDの成果等
- (1) 参加者からの評価 (アンケートの集計結果を記述する)



- ●今回のFDの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。
- ・楽しかったので、SCAS の時にもっと話し合う時間が欲しかったです。廣江先生の説明はとても大切なことなので、もっと時間を与えられるべきだと思いました。
- とても勉強になりました。
- ・分かりやすいご説明でした。自分の授業のコンテンツや課題の出し方(量)について も再考したいと思います。
- ・SCAS の2人の外国人の先生方のプレゼンもとても勉強になって、グループトークの機会もよかった。
- ・SCAS の先生方のプレゼンテーションの PPT 資料も配布していただければよかったのではないかと思いました。大変良いセミナーでした。ありがとうございました。
- ・英語教員に限らず、外国語担当みんな参加すればいいと思います。
- ・定期的にこのような機会を作っていただけると様々な先生と意見交換が出来てために なります。ありがとうございました。
- Today's FD was very interesting, particularly the SCAS team presentation. It was a pleasure hearing from other teachers regarding their experience in their classes.
- ・SCASの人たちの話をもっと聞きたかった。
- ・貴重なワークショップをありがとうございました。SCAS プログラムを実際に行っているところを見学してみたいと思いました。具体的な input-output のプロセスに関心を持ちました。(TESOL についてほとんど知識がないため、SCAS の先生達がどのように学生さんの teaching の navigation をしているか、映像でも良いので見てみたいです。
- The SCAS team presentation was very interesting.
- ・新年度にむけての準備等ができる FD として理解して参加しておりますので、全体として必要かつ有意義だと思います。
- Presentation を興味深く聞かせていただきました。

・SCAS の講師の方の英語が聞き取りやすく、週4日授業を受けられるのは幸せだと思います。

## (2) 総 括(10(1)を踏まえFD全体の総括を記述する)

教養教育科目としての英語授業コマ数の総数の内 50%近くを非常勤講師が担当している現状においては、専任教員、非常勤講師を問わず、長崎大学の英語教育の目標・目的に沿った形で授業を行うことは言うまでもないが、授業担当者間で教授法や学生の一般的傾向等を情報共有することも求められている。

しかしながら、授業公開制度があるものの、一定の時間内でお互いの授業を見学し合うということは、とくに非常勤講師にとっては、現実的になかなか厳しいのが実情である。

そこで、昨年 9 月から始まった本学の長崎グローバル+コースの英語特別プログラム SCAS のために雇用した三人の講師陣(CeAnn Myers, Nickola Verde, Kerry Pussey)が TESOL の専門家であり、TESOL の学会でも精力的に研究発表を行い、世界各地の英語プログラムで結果を残してきたという実績もあり、SCAS チームに TESOL に関するプレゼンテーションを行ってもらった。

アンケートでも SCAS チームによるプレゼンテーションは好評で、具体的な教授法に関する初めての機会になった。本学で教鞭をとる英語科目担当教員が、忌憚の無い形で授業に関する議論の場を提供していくことも言語教育研究センターの新たなミッションかもしれない。

また、言語教育研究センターのさまざまな取り組みが驚くほど一部の学生及び教員にしか伝わっていないことを踏まえ、外国語プレゼンテーション・コンテストや年 2 回の海外語学研修で撮影した写真等を編集して作成した映像を視聴してもらうことで一層の周知を図ったことも初めての FD での取り組みであった。

## 11. 実施代表者の連絡先

部 局:言語教育研究センター

職 名:言語教育研究センター長 氏 名:稲田俊明 e-mail:inadat@nagasaki-u.ac.jp 内 線:2379

## 12. 申請者の連絡先

部 局:言語教育研究センター

職 名:教授 氏 名:廣江 顕

e-mail: ahiroe@nagasaki-u.ac.jp 内線:2378